

都内感染前週比微増 新変異株も6例初確認 小池知事「国がマスク指針を」

2022年5月12日産経新聞

東京都は12日、新型コロナウイルスの感染状況を分析するモニタリング会議を都庁で開いた。減少傾向が続いていた新規感染者数が下げ止まり、ゴールデンウィーク（GW）後半以降、前週比で微増となった。オミクロン株の「組み換え体」6例が都内で初めて確認されたことも報告。GWが明け、全国半数超の府県で感染者数が増加しており、専門家は警戒の継続を呼び掛けている。

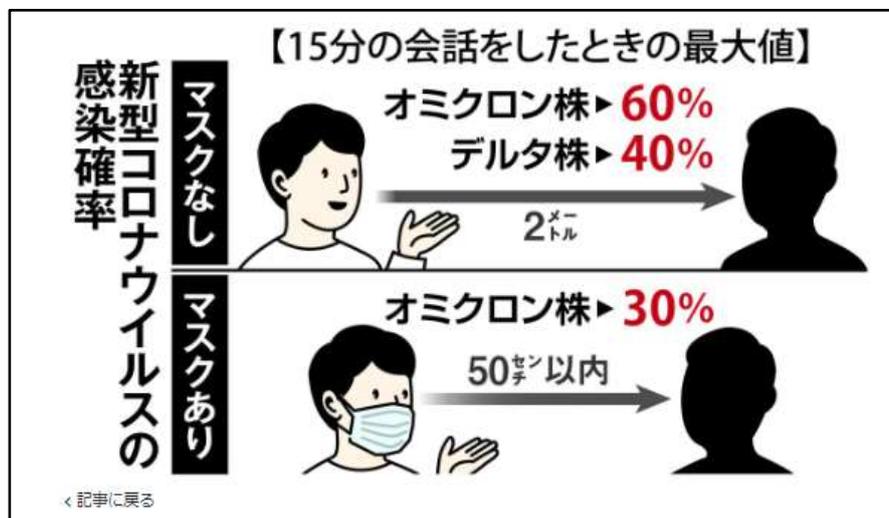
直近7日間を平均した1日当たりの新規感染者数は都内で3579・7人（5月11日時点）。同4日時点の3344・1人からわずかながら増加し、7千人を超えていた4月中旬からの下降傾向はGWをまたいで止まった。

全国的にも感染者数は下げ止まりつつあり、厚生労働省の専門家組織によると、国内の今月4～10日の感染者数はその前の週と比べ0・98倍とほぼ横ばいに。福井県で1・55倍、徳島県で1・67倍になるなど25府県では増加した。

一方、都内では30代以下の若年層が新規感染者の6割超を占める状況が続いている。3回目のワクチン接種率が8割を超える65歳以上の高齢者と比べ、30代以下の接種率は低く、小池百合子知事は「自身と大切な人を守り、安全な社会をつくるため、ぜひ接種していただきたい」と重ねて早期の接種を呼び掛けた。

最大確保病床7229床の使用率は今月4日時点の16・8%から11日時点では15・4%に。賀来満夫・東北医科薬科大特任教授は「新規感染者数や病床使用率などの状況に留意し、基本的な感染症対策を継続することが重要だ」と述べ、引き続きの警戒を求めた。6例確認されたオミクロン株の組み換え体は、主流系統「BA・1」と派生系統「BA・2」の間で遺伝子の一部が組み換わって生成されたウイルス。3月中旬から4月上旬にかけて採取され、感染力などは明らかになっていない。

感染者はいずれも軽症で、現在は療養を終えているという。賀来氏は現時点で組み換え体の感染が広がっている状況にはないとして、「冷静にとらえていただきたい」と述べた。熱中症の発生が懸念される夏場を前に、感染対策としてのマスク着用を継続すべきかについて都の専門家会議で議論する方針も示された。小池氏は「科学的な知見を踏まえ、国として明確に（指針を）決めるのが最初ではないか」と述べ、政府がまず方針を明示すべきとの考えを示した。



オミクロン株、マスクなし
距離2mで感染確率
60% スパコン「富岳」
分析